



地域と協働で将来のビジョンづくりをしていく

空き店舗対策は。

町 地元と連携を深めて課題に取り組む。

問 町内各地の商店街の活気を取り戻す考えは。

観光商工課長 第6次那須町振興計画における商店と町の活性化の取り組みは、町民の評価を得るところまでは至っていない。

第7次振興計画策定にあたり、反省すべきところは反省し、地元との連携を密に取り、課題や展望を共有しながらコーディネートしていきたい。

問 第7次那須町振興計画策定にあたり、町の活性化の具体的内容は。

町長 地域の子どもたちにとってこの町を、愛着ある町と想ってもらうことが将来に向けての活性化になる。

その意味で、町内各地の商店街の魅力度を上げることが重要である。

そのために、地域住民と力を合わせ、色々な施策を展開して、商店街の活気を

取り戻す努力を続けていく。

問 各地の商店街への今後の取り組みに対する対応は。

観光商工課長 地方版総合戦略が、今後5年間の施策のベースになる。

町と地元の皆様と協働で地域の振興のビジョンづくりを行い、国、県などの補助事業を有効活用し、年度ごとにプランを実現していくのが理想であると考えている。

問 新規開業希望者への支援は。

観光商工課長 空き店舗の利活用は創業支援や若者の雇用にも重要である。

ふるさと定住課の「空き家バンク事業」とも連携し、他自治体の先進事例を参考に、取り組みを検討したい。また、借り手側と貸し手側のミスマッチが起きないように、地域の振興ビジョンをしっかりと作り上げ、

まちづくり会社の設立も視野に入れながら振興を図っていく。



皆でつくる朝市